

番号：

[illegible]

■学生生活・自己PR等

学 歴	(該当者のみ)	大学院	研究・専攻	(平成・令和	年修了又は見込)
	ゼミ・指導教官：	(例：「国際政治（佐藤教授）」／研究テーマ：			
		大学	学部	(平成・令和	年卒業又は見込)
	ゼミ・指導教官：	／研究テーマ：			
学生時代の課外活動（部活・サークル・インターン・アルバイト等）・職歴（社会人経験者のみ）					
出身高校					
趣味・特技・各種資格等					
英語その他外国語能力		TOEFL	点	IELTS	点 その他（ ）
海外生活経験 （滞在国・期間・活動内容）					
志望動機		<p>この度、私は、安全保障だけでなく経済外交やそれらを一貫する価値外交も通じた総合的な外交により、日本の平和と繁栄を守りたく、外務省を志望する。</p> <p>元々所謂失われた30年を生き、経済の停滞を突き付けられてきた身として、経済で名を馳せてきた日本の平和と繁栄の将来に問題意識があった。やがて、中国の台頭と米国の衰退を含む日本を取り巻く環境の流動化を受け、一層その問題意識を持つ一方、大学にて、それを解決できるもの、すなわち、不可欠な世界との関係における日本の平和と繁栄の実現を使命とする外交に出会った。</p> <p>そのような中の留学では、やはり日本のために働きたいという志を固めつつ、ある教授の言葉から、日本の平和と繁栄は軍事だけでなく経済やそれらを一貫する価値にもより実現されると考えた。またその価値について、友人との議論から、世界の様々な対立は個人の価値の対立に基づくことを、そしてある外交官との議論から、真摯にコミュニケーションを図り後者の克服を前者の克服に繋げることこそが外交であることを学び、自分もその担い手の一人たりたと思った。</p> <p>その後説明会や本省と在外公館でのインターンシップを経て、外務省においてこそ、冒頭のような生き方ができると信じるに至り、本日、その門を叩く。</p>			
入省後担当したい分野・地域 (複数の分野・地域をご記入下さい)		FTA・EPA 政策、G7/G20 サミット、安全保障政策全般、アジア・大洋州			

自己 PR	<p>私は旺盛な好奇心に従い、限界を定めず、挑戦を繰り返す人間だ。大学では、厳格な部活経験がない中でも〇〇部に所属した後、海外経験が全くない中でも〇〇に留学した。その結果、例え未経験の状況でも、無駄なプライドは捨て、できることを精一杯やることで結果に拘る姿勢、ひいてはその姿勢を通じた「突破力」を身につけることができた。</p> <p>まず部活では、リーグ戦優勝という目標を共有するチームのメンバーとして、自分の役立て方を模索し、〇〇という立場からイレギュラーのモチベーションのマネジメントを通じて、その達成に微力ながら貢献した。</p> <p>次に留学では、1学期に惨憺たる成績を修めたことから、2学期はその反省を活かしたり自分の弱みを強みで補ったりと、諦めず地道に工夫と努力を重ねて授業に臨み、納得のいく成果を挙げた。また寮での一連の国際交流イベントに日本人寮生の代表として他の寮生を巻き込みながら参加しつつ、自分でも別のイベントを主催して定例化させ、寮のコミュニケーションを活発化させた。</p> <p>ぜひ来春からは、引き続き様々な困難を一つ一つ突破しながら、外交という、日本と世界の歴史を紡ぎ未来を創る、決して終わることのない挑戦をしたい。</p>
最近の外交に関するニュースを1つ選び、自由に論じてください。 (必ずしも、現在の日本政府の政策にとらわれる必要はありません。日本政府の政策に批判的な考えであっても、そのこと自体は選考に影響は及ぼしません。)	<p>5月28日、中国の全人代で香港国家安全法の制定方針が採択された。これは内政的には香港基本法、外交的には英中共同声明を反故にし得るものとして、香港における「一国二制度」の存続に影を落とす問題である。中国は香港でのデモを受け、9月の立法会選挙に向けて民主派の牽制を意図したのだろうが、米国が香港の優遇措置の見直しを発表した通り、米中対立もさらに激化した。日本は米英豪加が「深い懸念」を表明する前に中国に「深い憂慮」を申し入れ、各国より早く厳しい態度をとった。日中関係維持や習近平訪日より国民感情や足下の諸問題への毅然とした対応を選んだと考える。ただ中国に単独で対することを避けつつ、世界に普遍的な価値を奉じる姿勢を発信するため、二国間に加えて多国間枠組みの活用も望まれるところ、何故先の選択をしながら各国と足並みを揃えなかったのか率直に疑問だ。その意味で、後に安倍首相が述べた「日本がG7の共同声明をリードしたい」という考えには共感する。普遍的な価値を共有する国々が集うG7をその価値の旗手としてリードし、中国等との調整に当たる役割は、本件に限らず、従前その役割を果たすも衰退する米国と独自の価値を掲げ台頭する中国の間に位置する日本にこそ求められるはずだ。</p>

■連絡先等

現住所			
	電話：	携帯電話：	
	e-mail：		
帰省先			電話：
事前面談会第1ターム参加希望日程 (事前調査)	a. 23日(火) b. 24日(水) c. 25日(木) d. 26日(金) ※上記4日間から、訪問を希望する日付を1日のみ選んで下さい。なお、この日程で訪問可能となることを確約するものではありません。18日(木)9:00以降、事前登録をされた方に、予約の方法について通知いたします。		
事前面談会の参加方法・日程等 に対するその他要望 (例：オンライン面談の環境が準備できない、23日の午前10-11時は大学の講義で参加できない等)	(該当者のみ)		
(外務本省に訪問する場合) 滞在先への経路			